【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】平成28年10月6日(2016.10.6)

【公表番号】特表2015-526623(P2015-526623A)
【公表日】平成27年9月10日(2015.9.10)
【年通号数】公開・登録公報2015-057
【出願番号】特願2015-530053(P2015-530053)
【国際特許分類】
Ｅ０２Ｆ　3/30　(2006.01)
Ｅ０２Ｆ　3/40　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｅ０２Ｆ　3/30　Ｆ
Ｅ０２Ｆ　3/40　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成28年8月19日(2016.8.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ケーブル式ショベルのためのバケットであって、前記バケットは、前記ケーブル式ショベルの動作の間に材料を収集するためのキャビティーを集合的に画定するシェルおよびドアを含み、前記シェルは、前方壁部と、反対側の背面壁部と、前記前方壁部と前記背面壁部との間に延在する側壁部とを含み、前記背面壁部は、前記バケットがダンピング位置にあるときに前記ケーブル式ショベルに面する外部表面を有しており、前記外部表面は前記バケットを前記ケーブル式ショベルに取り付けるために支持し、前記ドアは、前記シェルの前記背面壁部の前記外部表面と前記前方壁部との間で前記バケットの支持から離れた枢動軸線の周りで、開位置と閉位置との間の重力で作動する移動のために、前記シェルに枢動可能に固定されている、ケーブル式ショベルのためのバケット。
【請求項２】
前記ドアが、１対のヒンジ部材によって前記シェルに枢動可能に固定されており、前記１対のヒンジ部材のそれぞれは、前記ドアに接続され、前記シェルに枢動可能に固定されている、請求項１に記載のバケット。
【請求項３】
それぞれの前記ヒンジ部材が、前記ドアと前記枢動軸線との間で概して直線状である、請求項２に記載のバケット。
【請求項４】
それぞれの前記ヒンジ部材が、前記ドアの一部分を横切って延在するサポート部分と、前記シェルに枢動可能に固定されている装着部分とを含む、請求項２に記載のバケット。
【請求項５】
前記シェルが、前方端部と後方端部とを含み、前記前方端部が、掘削作業において地面に接触するための掘削縁部と、ヒール部とを有しており、前記ドアが、前記前方端部の近位にある前方部分と、前記後方端部の近位にある後方部分とを含み、前記ドアの前記前方部分が、前記ヒール部の方へ前方に曲げられており、前記ドアが閉められるときに、相補的な形状のシェルに当接する、請求項１に記載のバケット。
【請求項６】

前記ドアの前記前方部分が、前記ヒール部の方へ前方に湾曲している、請求項５に記載のバケット。
【請求項７】
掘削機器とともに使用するためのケーブル式ショベルのバケットであって、前記ケーブル式ショベルのバケットは、
外部表面およびアタッチメントサポートを備える背面壁部であって、前記アタッチメントサポートは、前記ケーブル式ショベルのバケットを前記掘削機器に接続するために前記外部表面から後方に向いている、背面壁部と、
前記背面壁部と反対側の前方壁部と、
前記背面壁部と前記前方壁部との間にそれぞれ位置付けされている１対の対向する側壁部と、
前記背面壁部、前記前方壁部、および前記側壁部に隣接するドアと
を含み、
前記背面壁部、前記前方壁部、および前記側壁部は、シェルを集合的に画定しており、前記シェルおよび前記ドアは、掘り出される材料を収集するために、キャビティーを集合的に画定しており、前記ドア、および、前記キャビティーの中の前記材料は、集合的な重心を有しており、前記ドアは、前記背面壁部の前記外部表面と前記集合的な重心との間に位置付けされている枢動接続部によって、前記シェルに固定されており、前記ドアが、閉位置と開位置との間で重力に応答して軸線の周りを枢動するようになっており、前記閉位置において、前記ドアは、掘り出される前記材料を収集するために、拘束装置によって前記前方壁部に対して保持されており、前記開位置において、前記拘束装置は引っ込み、前記前方壁部から前記ドアを係合解除させ、掘り出される前記材料をダンプする、掘削機器とともに使用するためのケーブル式ショベルのバケット。
【請求項８】
前記拘束装置が、解放可能なラッチである、請求項７に記載のケーブル式ショベルのバケット。
【請求項９】
前記解放可能なラッチが、前記バケットの側部のうちの少なくとも１つに前記ドアを固定する、請求項８に記載のケーブル式ショベルのバケット。
【請求項１０】
前記拘束装置が、ロッドおよびブレーキである、請求項７に記載のケーブル式ショベルのバケット。
【請求項１１】
前記拘束装置が、油圧回路である、請求項７に記載のケーブル式ショベルのバケット。
【請求項１２】
前記側壁部の前方端部、および、前記ドアの前方端部が、前記前方壁部および前記キャビティーの開口部に向かって前方に湾曲している、請求項７に記載のケーブル式ショベルのバケット。
【請求項１３】
前記拘束装置が、解放可能なラッチである、請求項１２に記載のケーブル式ショベルのバケット。
【請求項１４】
前記解放可能なラッチが、前記バケットの前記側部のうちの少なくとも１つに前記ドアを固定する、請求項１３に記載のケーブル式ショベルのバケット。
【請求項１５】
前記枢動接続部が、前記ドアに取り付けられ、かつ、前記シェルにピンで留められている概して直線状のヒンジ部材によって提供される、請求項７に記載のケーブル式ショベルのバケット。
【請求項１６】
フラップが、前記背面壁部と前記ドアとの間で、前記バケットの後方部分に沿って位置

付けされており、前記フラップが、ヒンジによって前記シェルに連結されており、前記ドアが前記閉位置にあるときには、前記フラップの縁部が、前記ドアの前記内部表面の後方端部に沿ってセットされ、前記ドアが前記開位置にあるときには、前記フラップの縁部が、前記キャビティーから離れるように枢動するようになっている、請求項７に記載のケーブル式ショベルのバケット。

【請求項１７】

ケーブル式ショベルのためのバケットであって、前記バケットは、掘削縁部を有する前方端部、および、前記バケットを前記ケーブル式ショベルに固定するためのサポートを有する後方端部を含むシェルと、開位置と閉位置との間での移動のために前記シェルに枢動可能に固定されているドアとを含み、前記シェルおよび前記ドアは、閉められると、前記ケーブル式ショベルの動作の間に材料を収集するためのキャビティーを集合的に画定し、前記ドアは重力で作動し、前記シェルの前記前方端部の近位にある前方部分と、前記シェルの前記後方端部の近位にある後方部分とを有しており、前記ドアの前記前方部分は、前記掘削縁部に向けて曲げられており、前記ドアが閉められるときに、相補的な形状のシェルに当接し、前記ドアは、前記開位置と前記閉位置との間で、前記バケットのサポートから離れて前記シェルの後方端部の外部表面の前方へ延びる枢動軸線の周りで枢動する、ケーブル式ショベルのバケット。

【請求項１８】

拘束装置は、前記閉位置において、前記シェルに対して前記ドアを保持し、前記拘束装置は、前記開位置において、前記シェルから前記ドアを係合解除する、請求項１７に記載のケーブル式ショベルのバケット。

【請求項１９】

前記拘束装置が、解放可能なラッチである、請求項１７に記載のケーブル式ショベルのバケット。

【請求項２０】

前記解放可能なラッチが、前記バケットの側部のうちの少なくとも１つに前記ドアを固定する、請求項１９に記載のケーブル式ショベルのバケット。

【請求項２１】

前記拘束装置が、ロッドおよびブレーキである、請求項１９に記載のケーブル式ショベルのバケット。

【請求項２２】

前記拘束装置が、油圧回路である、請求項１９に記載のケーブル式ショベルのバケット。

【請求項２３】

前記枢動接続部が、概して直線状のヒンジ部材を有している、請求項１７に記載のケーブル式ショベルのバケット。

【請求項２４】

前記ドアの前記前方部分が、前記掘削縁部に向かって湾曲している、請求項１７に記載のバケット。

【請求項２５】

ケーブル式ショベルのバケットのためのドアであって、前記ドアは、

前記バケットの掘削縁部に向かって内向きに面する内部表面であって、前記内部表面は、シェルとともに、ケーブル式ショベルの動作の間に材料を収集するためのキャビティーを集合的に画定する、内部表面と、

反対側の外部表面と、

前方縁部、後方縁部、および、前記前方縁部と前記後方縁部との間に延在する対向する側部縁部と、

１対のヒンジ部材であって、それぞれのヒンジ部材は、前記バケットの前記シェルへの枢動接続のための枢動孔部が設けられた遠位端部を有しており、それぞれの前記ヒンジ部材が、概して直線状である、１対のヒンジ部材と

を含む、ケーブル式ショベルのバケットのためのドア。